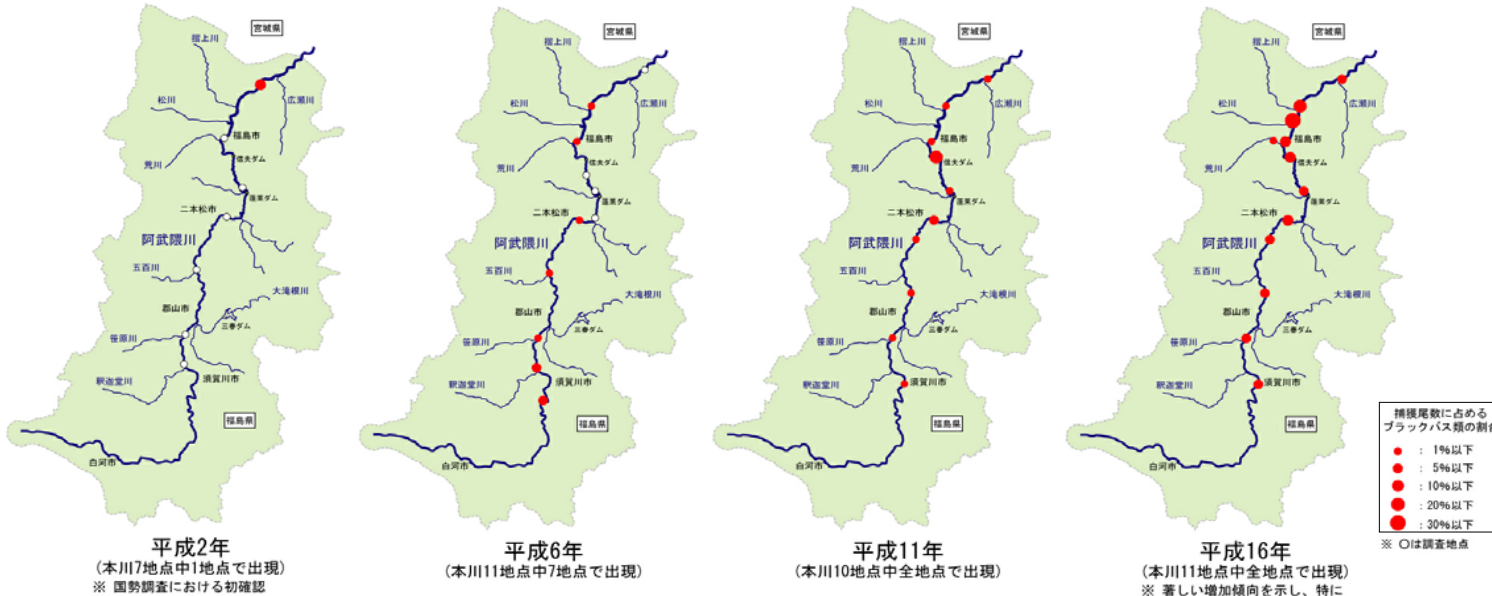


阿武隈川でブラックバス類^{注)}が増加しています!!

○ 国土交通省 福島河川国道事務所が行った「河川水辺の国勢調査」の結果、平成2年の初確認以降、急速に分布域を拡大し、生息数も増加していることがわかりました。

注) ブラックバス類(オオクチバス・コクチバス・ブルーギル)は、特定外来生物被害防止法によって、**特定外来生物**に指定されており、在来生態系の破壊や水産資源への影響が懸念される生物です。



オオクチバス *Micropterus salmoides*
止水域を好む。主に全国の湖沼やダム湖から確認が報告されており、近年は河川でも増加している。



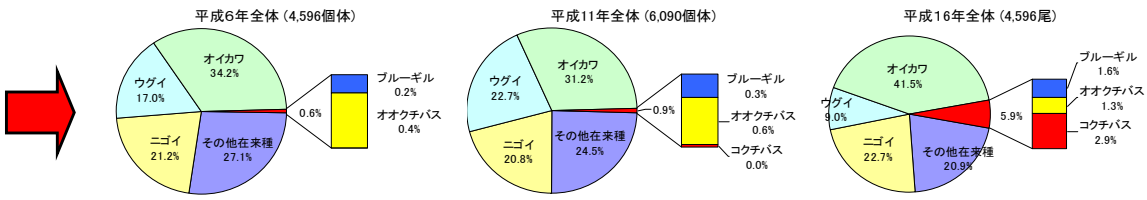
コクチバス *Micropterus dolomieu*
オオクチバスよりも水温の低いところを好み、流れのあるところにも生息する。近年急速に河川への分布を広げており、既に阿賀野川水系、利根川水系でも報告(国勢調査)されている。



ブルーギル *Lepomis macrochirus*
湖沼や河川の岸際の流れの緩やかな水草帯を好む。主に全国の湖沼やため池などから報告されている。

●ブラックバス類は、平成2年に伊達崎付近で始めて確認(国勢調査)されて以降、5年間でほぼ全域に出現し、その後も増加を続けています。

●特に平成11年から16年にかけては、コクチバスが著しい増加傾向を示しており、在来魚への影響が懸念されます。



○ 福島河川国道事務所では、これらの調査結果を重く受け止め、平成17年度から「外来魚生息実態調査」を実施しています。

- ・その結果、成魚だけでなく、幼稚魚も多く確認され、阿武隈川の各所に定着し、再生産を行っていることが把握されました。
- ・生まれた幼稚魚は初夏から盛夏期にかけて河川内に広く分散し、流れの強いところにも勢力を拡大します。
- ・特に確認個体数が多かった福島市周辺は、天然アユが遡上・摂餌をする範囲とも重複することから、アユ資源や遊漁への影響も懸念されます。



捕獲されたブラックバス類:成魚から幼稚魚までが出現する



コクチバスの消化管から出てきたアユ